

樹氷復活県民会議の取組みについて



～山形県民の宝である「樹氷」の復活に向けて～

令和7年度「樹氷復活県民会議」
令和8年3月23日

今年度の取組みについて

1 活動方針

- 播種・移植等の活動に、樹氷復活サポーターや教育機関と協働して取り組むことで、次世代を担う子どもたちへの継承の機会を確保し、自ら環境問題に取り組む機運の醸成を図る。
- ◇ 自然再生協議会ワーキングチームを設置し、中長期的なオオシラビソ林の再生計画づくりに取り組む。

2 活動内容

- 県圃場での播種及び育苗
- 次世代を担う子どもたち及び樹氷復活サポーターによる稚樹移植体験の実施
- 樹氷復活サポーターとの協働による移植試験地の整備（笹刈り）
- オオシラビソの生態等を学ぶ環境体験学習の実施
- 樹氷復活サポーター制度による機運の醸成
- 県民への普及啓発、県内外への情報の発信
- ◇ 自然再生協議会ワーキングチームによる自然再生全体構想骨子の検討

1 県圃場での播種及び育苗

播種日：令和7年6月16日（金）

場 所：蔵王温泉ユートピアゲレンデ 県圃場（標高1,400m付近）

参加者：樹氷復活県民会議メンバー 22名

- 概 要：
- ・新たに16m²（4m×4m）の圃場を造成
 - ・野ネズミによる食害防止用に金網を8区画を設置し、2,400粒（1区画300粒）の播種を実施
 - ・令和5年度から育苗している稚樹は高さ13cmに成長
 - ・おおむね6年程度で移植可能な樹高（約20cm）に成長する
 - ・今夏の猛暑により多くの苗が枯れてしまったことから、暑さ対策の工夫が必要



県圃場での生育状況

播種年	R05	R06	R07
播種数 (粒)	800	2400	2400
生存数 (本)	93	220	492
生存率 (%)	11.6	9.2	20.5

R7. 10月末現在

2 次世代を担う子どもたちによる稚樹移植体験

参加校

令和7年7月10日（金）：山形市立蔵王第二小学校 45名

令和7年9月22日（月）：山形市立山寺小中学校・蔵王第三小・蔵王第二中学校 44名

移植作業の行程

- ① 県立村山産業高校の生徒からオオシラビソの現状等の説明を受ける。
- ② ユートピアゲレンデ付近に自生するオオシラビソの稚樹を掘り取りロープウェイで山頂まで運ぶ。
- ③ 一面笹の根に覆われた地面に穴を掘り、稚樹を移植する。

※高校生が、作業の指導・サポートを担ってくれました。



3 樹氷復活サポーター企業・団体による稚樹移植体験

高梨沙羅選手が発起人となり自然環境保護活動等を行っている

「(一社) JUMP for The Earth PROJECT」が

令和7年7月 樹氷復活サポーターに登録

実施日：令和7年8月30日（土）

参加者：高梨沙羅選手、樹氷復活サポーター企業・団体（親子参加）、
県立村山産業高校 45名

概要：樹氷復活サポーター企業・団体を対象に参加者を募集（募集期間7/23～8/5）



令和7年度移植本数：85本（県民会議50本、山形森林管理署35本）累計：362本

4 オオシラビソの生態等を学ぶ環境体験学習の実施

参加校

令和7年7月1日（金）：上山市立宮川中学校 21名

令和7年9月1，8，16日（月）：上山市立上山小学校 75名

体験学習の行程

- ① 蔵王坊平地区内の施設で坊平の自然やオオシラビソの現状等について説明を受ける。
- ② 登山道付近に自生する稚樹の保護活動（笹刈り）を行った後、稚樹の樹高や枝の数を観察して記録する。
- ③ 御田ノ神湿原を散策し、高山植物等の自然観察を行う。



5 環境課題に取り組む機運の醸成

◎ 樹氷復活サポーター制度の運用

オオシラビソ林の再生・樹氷復活のための活動に自ら取組み、または取組みを支援する企業・団体を登録

登録数：42（令和8年3月4日時点）

◎ 樹氷復活・育成応援基金への寄付受け入れ

企業団体等の自発的な募金活動などにより寄せられた寄付金を基金に積み立て次の事業に活用する。

※山形県ふるさと納税「樹氷復活・育成応援事業」（個人・企業）からの寄付も可能

① オオシラビソ林の育成に係る活動への支援

② 再生活動を支える機運の醸成

寄付実績：約87,000,000円（令和8年2月末時点）

【新規】

「ガバメントクラウドファイディング型ふるさと納税」による寄付金の募集を実施

実施期間：①7月4日～9月30日、②10月31日～12月31日

寄付金額：合計1,862,000円

6 自然再生協議会ワーキングチームによる検討

令和9年4月から規模拡大した自然再生事業を実施するために

経緯

- ・ オオシラビソ林の自然再生事業を展開していくため、令和7年3月に県民会議を自然再生推進法に基づく「自然再生協議会」に位置付けた。
- ・ 令和7年7月に自然再生協議会ワーキングチームを設置し、長期的な観点から自然再生の全体的な方向性を示す「自然再生全体構想」の策定に向けて協議を開始した。
- ・ 令和7年度は会議を4回開催し、自然再生全体構想骨子案を作成した。

自然再生協議会ワーキングチーム構成員

区分	構成員
有識者	東北農林専門職大学 教授 大久保 達弘（チームリーダー）、山形大学 名誉教授 柳澤 文孝（副チームリーダー） 山形大学 名誉教授 林田 光祐、森林総合研究所東北支所 森林生態研究グループ長 齋藤 智之
地域関係団体 (団体推薦)	公益社団法人 山形県観光物産協会、一般社団法人 山形市観光協会、蔵王温泉観光協会、蔵王坊平観光協議会 一般社団法人 上山市観光物産協会、蔵王索道協会、公益財団法人 やまがた森林と緑の推進機構
地域住民	山形市推薦2名 上山市推薦2名
行政機関	山形県、山形市、上山市 環境省東北地方環境事務所国立公園課（オブザーバー）、林野庁東北森林管理局山形森林管理署（オブザーバー）

令和8年度の取組みについて

活動内容

○ 県圃場での播種及び育苗

- ・ 16区画の金網内に、1区画300粒、合計4,800粒の播種を実施
- ・ 新たな圃場の整備

○ 次世代を担う子どもたち及び樹氷復活サポーターによる稚樹移植体験の実施

令和8年度現地活動参加希望校

- ①山形市立東沢小学校、②蔵王第二小学校、③山寺小中学校、④蔵王第三小・第二中学校
- ⑤県立村山産業高校

○ オオシラビソの生態等を学ぶ環境体験学習の実施

令和8年度現地活動参加希望校

- ①上山市立宮川中学校

○ 樹氷復活サポーター制度による機運の醸成

○ 樹氷復活・育成応援基金への寄付受入れ

「ガバメントクラウドファイディング型ふるさと納税」による寄付金の募集を実施

○ 県民への普及啓発、県内外への情報の発信

◇ 自然再生協議会ワーキングチームによる自然再生全体構想及び 自然再生事業実施計画の検討

1 経緯

- ・令和5年3月13日「樹氷復活県民会議」設立した。
- ・令和7年3月14日「樹氷復活県民会議」を「自然再生推進法」に基づく「**自然再生協議会**」に位置付けた。
- ・自然再生協議会は、長期的な観点から自然再生の全体的な方向性を示す「**自然再生全体構想**」を策定する。
- ・令和7年度は自然再生協議会ワーキングチーム会議を4回開催し、自然再生全体構想の骨子案を作成した。

【自然再生全体構想の内容】

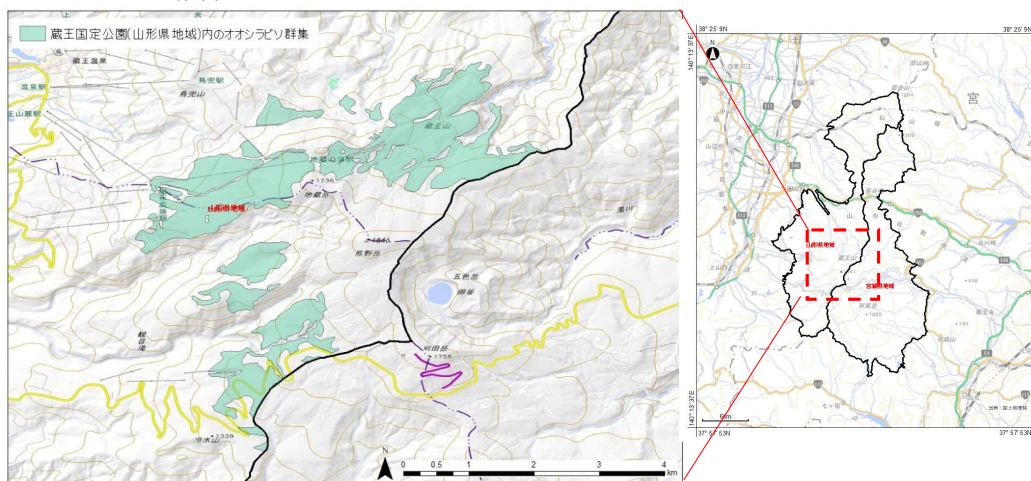
- ① 自然再生の対象となる区域
- ② 自然再生の目標
- ③ 自然再生協議会に参加する者の名称又は氏名とその役割分担
- ④ その他自然再生の推進に必要な事項

2 自然再生全体構想の骨子案

(1) 自然再生の対象となる区域

「蔵王国定公園(山形県地域)におけるオオシラビソ林の分布域」

※「令和4年度蔵王地域におけるアオモリトドマツの枯損等現況調査事業」(東北森林管理局)においては、山形県側には約691haのアオモリトドマツ(オオシラビソ)が分布していると報告されている。



蔵王国定公園(山形県地域)における
オオシラビソ林の分布域のイメージ

※オオシラビソ群集は環境省植生図shpより作成
背景図は国土地理院標準地図

蔵王国定公園

※環境アセスメントデータベース(EADAS)より作成
背景図は国土地理院標準地図

(2) 自然再生の目標・基本方針・目標達成のための取組み

【目標】 世界的にも希少で貴重な自然景観である

「蔵王の樹氷」を形成するオオシラビソ林の再生を目指す

基本方針① 順応的管理によるオオシラビソ林の保全と再生

- 1 事業実施区域のゾーニング
- 2 自生するオオシラビソの保全活動
- 3 オオシラビソの育苗・植栽による再生活動
- 4 モニタリングの実施

基本方針② 蔵王の景観の保護と利用とを両立した持続可能な地域づくり

- 1 自然環境の利用と地域産業の活性化
- 2 地域の多様な主体の参加と連携の推進

基本方針③ 次世代を担う子どもたちに蔵王の自然を継承するための 環境教育・学習の推進

- 1 蔵王の自然環境について学ぶ機会の創出

(3) 構成員の役割分担

樹氷復活県民会議の構成員は、自然再生事業実施者である山形県と連携・協力し再生事業を推進していく。個別の役割については、計画策定に合わせて検討する。

3 今後の予定

- ・令和8年度中 「**自然再生全体構想**」及び「**自然再生事業実施計画**」の策定
- ・令和9年4月～ 規模拡大した再生事業の実施



オオシラビソ林の 保全にむけた取り組み

令和8年3月23日
山形県立村山産業高等学校
みどり活用科 課題研究森林班

1. はじめに 村山産業高校みどり活用科の学習



村山産業高校みどり活用科は、野菜・草花に関わる学習を行う 園芸活用コース と、森林・林業や農業土木を学ぶ 緑地保全コース の2系統で学習をしています。

1. はじめに② 村山産業高校みどり活用科の学習



私たちは緑地保全コースで日々、学習や実習に取り組んでいます。特に最近ではスマート農業・林業などに関連した、専門講師を招き、実践的な学習をしています。

2. 研究の動機

山頂の枯死



令和4年度 研究班



令和5年度 研究班



令和6年度 研究班



令和7年度 研究班



「蔵王の状況改善に協力できないか？」と令和4年度から課題研究班での取り組みが始まりました。私たち2年生は令和8年度研究班として研究の準備をしています。今日は、前半に今年度の学習してきた成果の報告、後半に来年度の活動として計画していることを発表します。

3. 令和7年度の活動

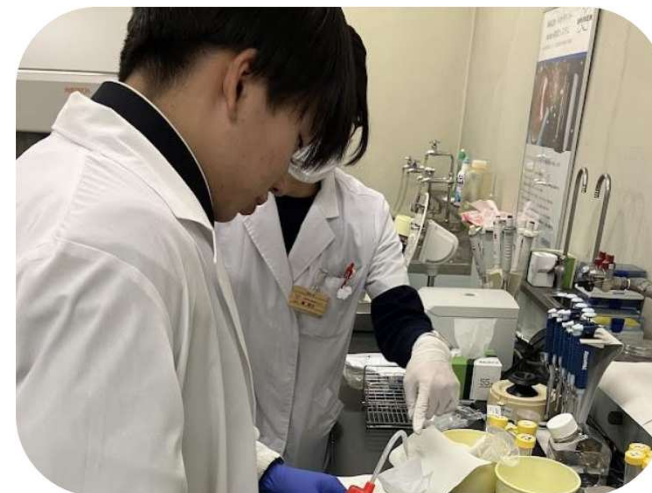
①挿し木による 発根を試みる



②地域協働で 再生活動実施



③枯死要因の調 査



令和7年度に取り組んだ活動を、オオシラビソの挿し木による発根試験、地域協働での再生活動、そして枯死要因の調査の3つに分けて紹介します。

4. 令和7年度の活動① 挿し木による発根を試みる



挿し木の様子



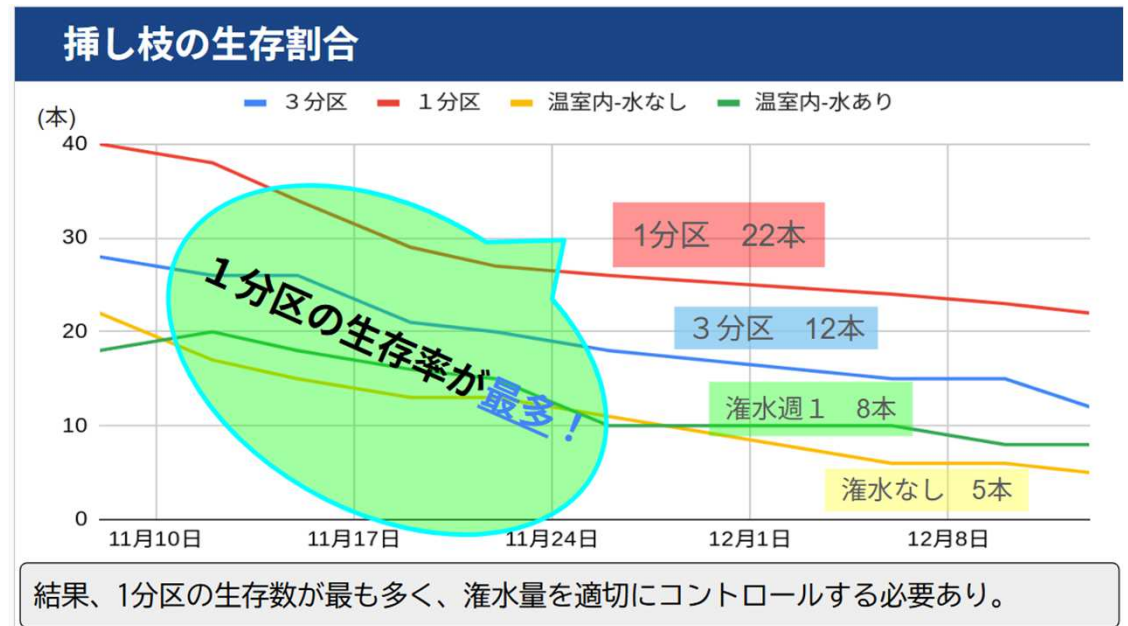
林木育種センターの職員のみなさまに、挿し木の技術指導をしていただきました。

はじめに、挿し木の取り組みについて紹介します。オオシラビソの生態を調べるため、試験用の株を増やしたいと考えました。私たちは、播種ではなく挿し木によって効率的な増殖を目指しました。しかし、モミ属など樹脂が多い木は、挿し木での発根が難しいといわれています。実際に、私たちの研究ではオオシラビソの発根はまだ確認できていません。

4. 令和7年度の活動① 挿し木による発根を試みる



挿し木灌水装置の様子

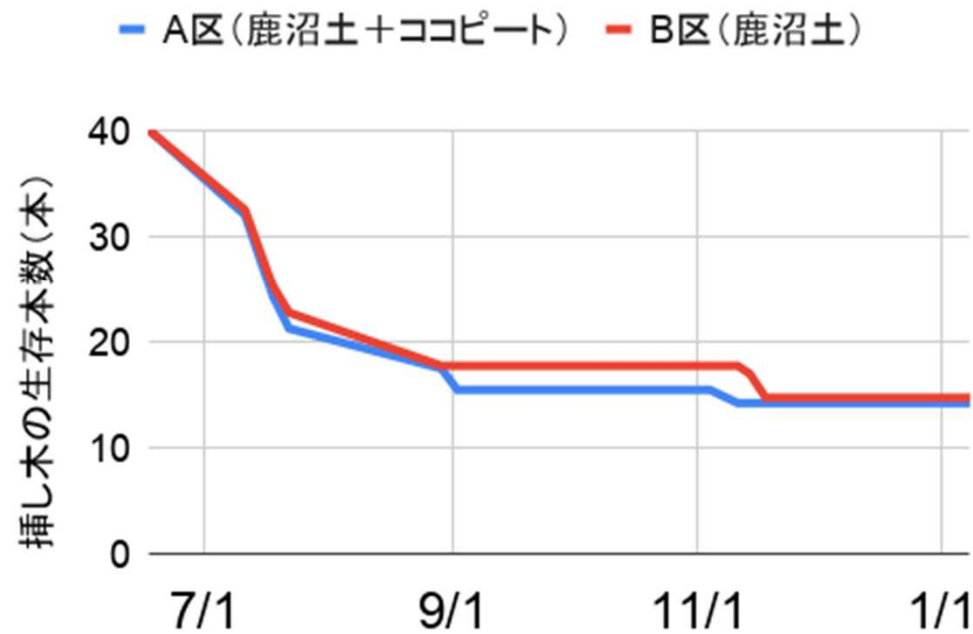


R6の温室の挿し枝生存調査

これまでの調査で、灌水量の違いによるオオシラビソの挿し枝の生存率を調べ、秋においては1日1回1分の灌水が最も生存率が高いことを明らかにしました。この試験結果をもとに、今年度の挿し木実験を行いました。

4. 令和7年度の活動① 挿し木による発根を試みる

オオシラビソ挿し木生存本数



挿し木灌水装置



挿し枝の確認

今年度の試験では、遮光ハウス、赤玉土による保湿などの暑熱対策を行って実験を行いました。ココピート鹿沼土混合区と鹿沼土区の2区を設け調査しましたが、どちらでも、1/3程度の生存を確認できました。しかし、**発根は達成できませんでした。**

5. 令和7年度の活動② 地域協働



続いて、地域協働の取り組みについて紹介します。私たちも樹氷復活サポーターとして活動し、地域協働の移植活動に参加しています。

5. 令和7年度の活動② 地域協働（樹氷復活県民会議）



令和7年度は、樹氷復活県民会議の稚樹移植の取り組みに①7月5日、②8月30日、③9月22日の合計3回参加しました。

5. 令和7年度の活動② 地域協働（樹氷復活県民会議）



樹氷復活県民会議の様子

今年から、稚樹の掘り起こし・移植の説明の係を私たちが担当させて頂きました。オリンピックの高梨沙羅選手、蔵王の小学校の子供たちと移植の取り組みを行いました。荒れた天気の日もありましたが、協力して活動にあたることができました。

6. 令和7年度の活動③ 枯死要因の調査



講義の様子



現地の菌類

最後に、枯死要因の調査です。2024年10月、樹木生態研究会の堀先生からオオシラビソの枯死要因の一つに「ナラタケ菌」が関わっている可能性がある、との見解が示されました。私たちは強く興味をひかれ、ぜひ調査をしたいと考え、やまがた森林と緑の推進機構の山口先生から、菌類と樹木の関係について講義をしていただきました。

6. 令和7年度の活動③ 枯死要因の調査



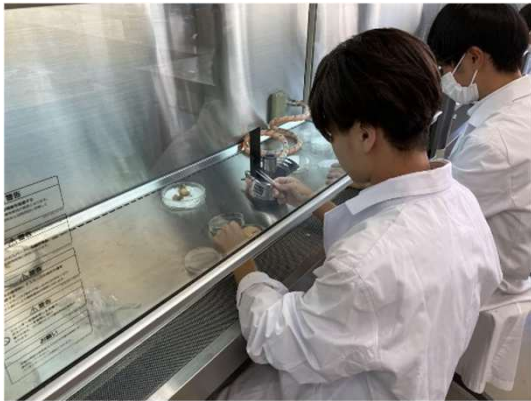
根状菌糸束



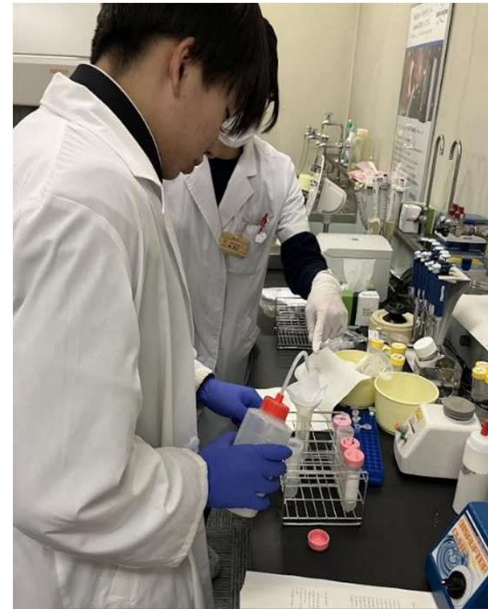
子実体

蔵王の枯死木のうちどれくらいの割合にこの菌がみられるか調査を行いました。2025年6月の調査では、蔵王山頂の枯死木を15本調査したところ、そのほぼすべてから菌類の組織の一部の「根状菌糸束」が発生していました。10月には、子実体も確認できました。

6. 令和7年度の活動③ 枯死要因の調査



菌類の培養



分析の前処理



質量分析器

この根状菌糸束と子実体の採取許可を頂き、培養試験を行いました。培養した後、山形県工業技術センターに持参し、分析を行うことで、この菌がナラタケであるかどうかの判定をしたいと試みました。しかし、残念ながら単離できておらず今回は同定できませんでした。

7. 令和8年度の活動計画① A I やQ G I Sの取り組み



学習させる画像を指定



AI学習中...

続いて、令和8年度の計画です。私たちは、物体検出A Iを活用し、オルソ画像から枯死木の数の推定を試みています。Ultralytics社の「Y0L011」を使い、物体検出を行います。村山産業高校DX化事業の一環で、山形大学の今野先生にY0L011を使用できる環境の構築をしていただきました。令和6年度に空撮した画像を活用し、蔵王の枯死木の画像を学習させます。Y0L011へのプロンプトはGoogle社のAI「Gemini」を活用しながら試行錯誤して行っています。

7. 令和8年度の活動計画① AIやQGISの取り組み

```
(base) C:\Users\user>cd C:\Users\user\ultralitics
(base) C:\Users\user\ultralitics>conda activate your_env_name
EnvironmentNameNotFound. Could not find conda environment: your_env_name
You can list all discoverable environments with 'conda info --envs'.

(base) C:\Users\user\ultralitics>style transfer\test_model\predict_model\run\test_train\weights\test.pt
data=C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg
conf=0.25 save=True
ultralitics 8.3.2022 Python 3.12.7 torch=2.2.1cu118 CUDA=9 (NVIDIA RTX A5000 20470MB)
VLO11n summary (found): 181 Layers, 2,582,347 parameters, 0 gradients, 6.3 GFLOPs

image 1/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 108 rices, 8.6ms
image 2/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 154 rices, 7.7ms
image 3/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 64 rices, 65.1ms
image 4/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 22 rices, 9.3ms
image 5/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 100 rices, 4.7ms
image 6/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 113 rices, 8.4ms
image 7/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 165 rices, 9.9ms
image 8/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 150 rices, 8.7ms
image 9/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 24 rices, 9.2ms
image 10/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 12 rices, 9.1ms
image 11/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 110 rices, 8.3ms
image 12/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 107 rices, 6.6ms
image 13/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 174 rices, 8.7ms
image 14/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 184 rices, 7.4ms
image 15/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 21 rices, 9.7ms
image 16/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 7 rices, 4.5ms
image 17/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 99 rices, 8.3ms
image 18/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 113 rices, 4.3ms
image 19/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 173 rices, 4.8ms
image 20/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 7 rices, 8.9ms
image 21/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 2 rices, 5.8ms
image 22/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 1 rice, 9.1ms
image 23/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 9 rices, 8.9ms
image 24/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 9 rices, 8.6ms
image 25/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 13 rices, 8.9ms
image 26/26 C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\pic4-4-1.jpg: 600x600 4 rices, 8.7ms
Speed: 2.1ms preprocess, 18.0ms inference, 1.1ms postprocess per image at shape (1, 3, 600, 600)
Results saved to C:\Users\user\ultralitics\test_data\test_data\predict
Learn more at https://docs.ultralitics.com/modes/predict
```

AIでの検出



ヒトの作業（目視）

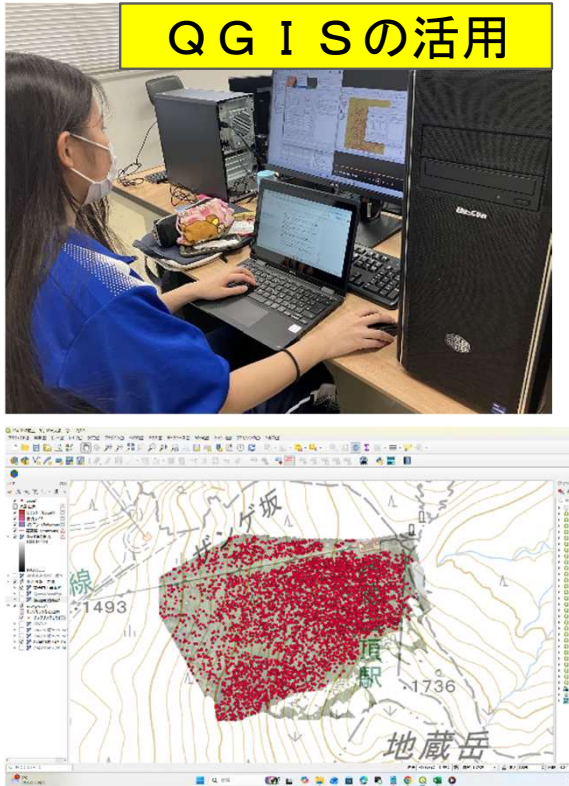
検出本数の比較

画像	AI	ヒト	精度
pic4-4-1	190	315	60.32%
pic4-3-4	135	230	58.70%
pic4-4-2	192	294	65.31%
pic4-3-3	140	195	71.79%
計	657	1034	64.03%

現時点での物体検出AIで読み取れた本数と私たちが目視で画像から枯死木を数え読み取った本数を比較したところ、**AIの検出精度は現在の所およそ64%でした**。また、検出に経過する時間はAIは**画像1枚あたり8.6秒**でしたが、私たちの**目視では10分程度**かかりました。画像から自動で判定できるようになれば現況把握のプロセスを簡略化できます。今後、学習のさせ方を改善し、さらに精度を向上させていきます。

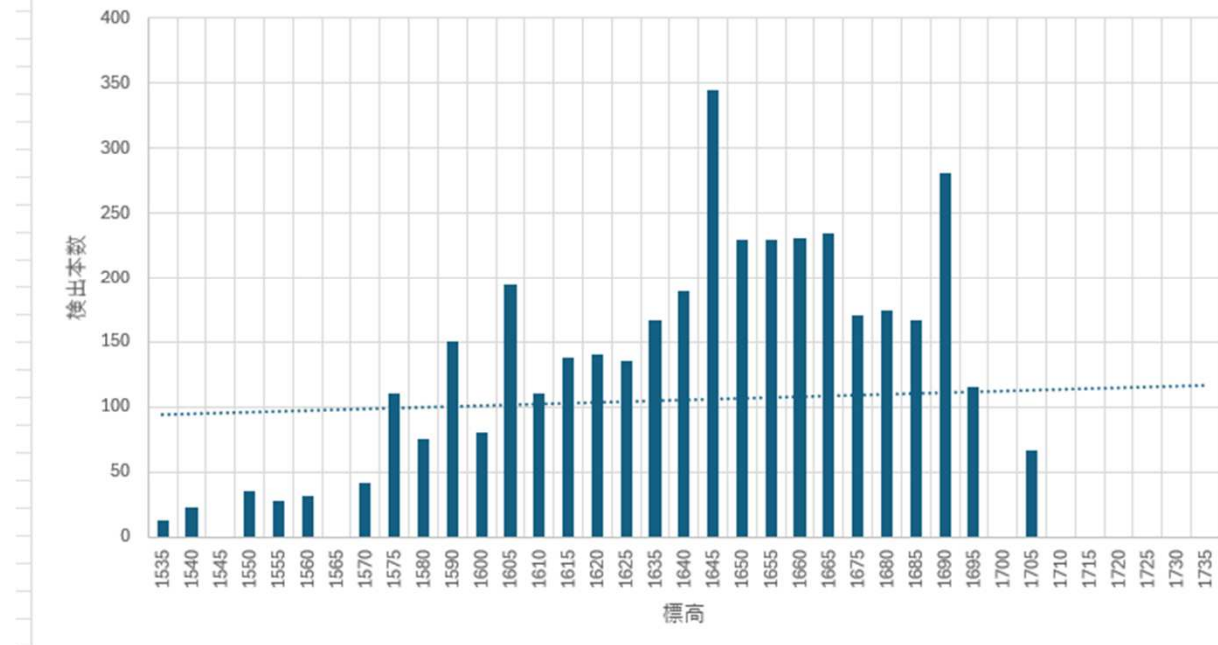
7. 令和8年度の活動計画① A I やQ G I Sの取り組み

Q G I Sの活用



データ例

標高の違いによる枯死木検出数のグラフ (仮)

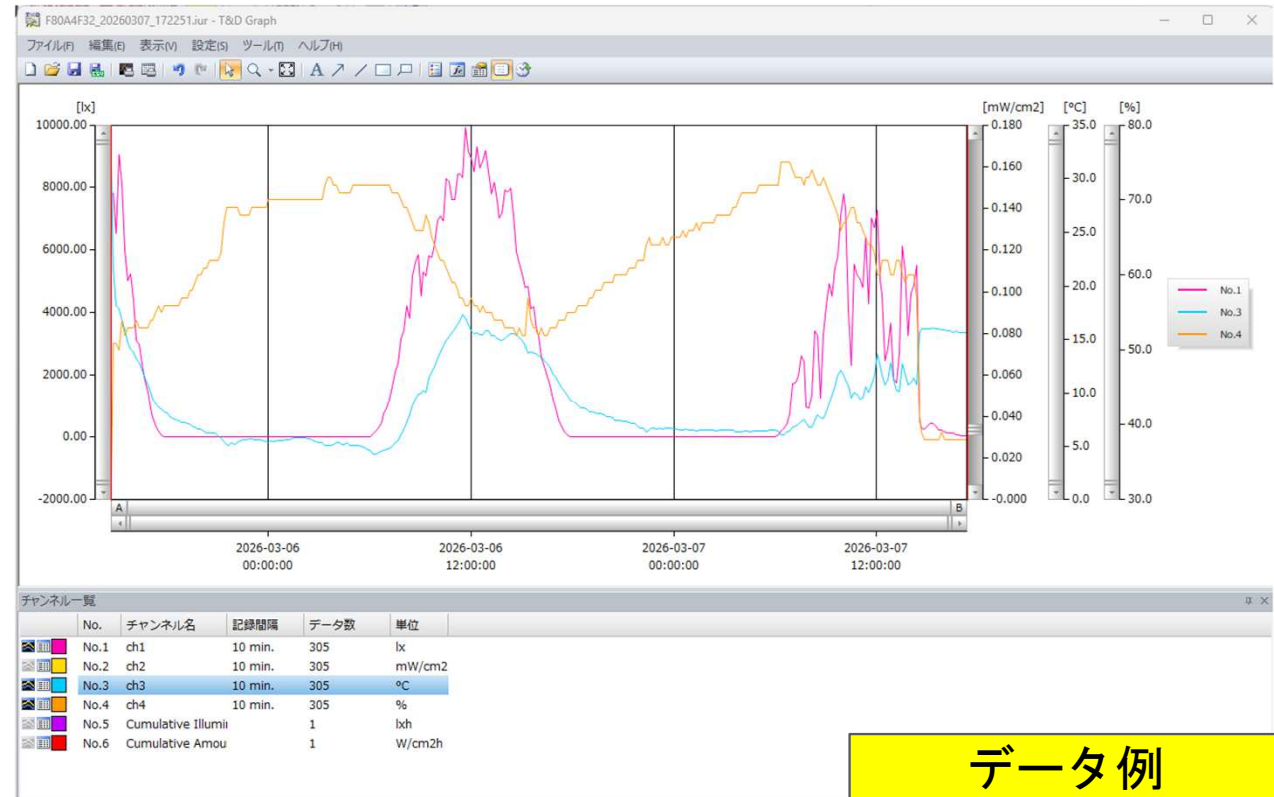


また、Q G I Sという地理情報システムの活用について学習をしています。Q G I Sに蔵王の空撮画像を取り込み、目視で入力したデータをもとに、標高ごとの本数を数えることができました。これらのデータを正確にとらえることが出来ているかどうか、今後調査して取り組んでいきたいと思います。

7. 令和8年度の活動計画② 挿し木実験のスマート化



おんどとり (T&D社)



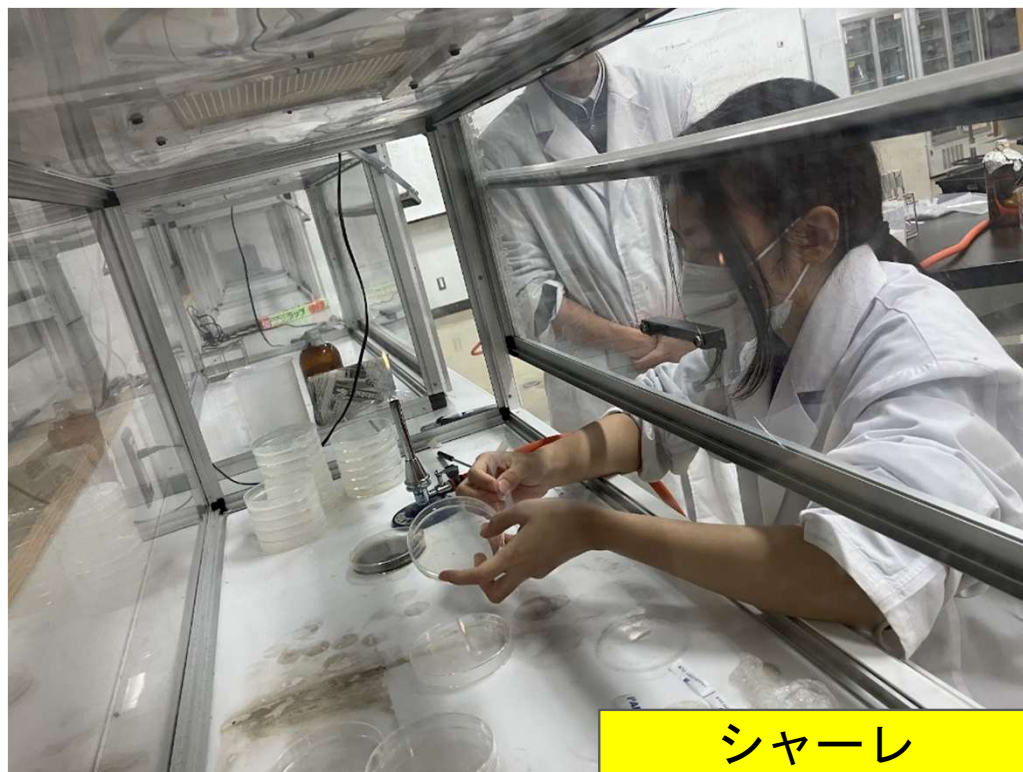
データ例

次に、挿し木の実験のスマート化です。これまでは継続した環境データを取っていませんでしたが、温湿度センサーを挿し木装置内に設置し、データを数値化することで、装置内の環境を明確にし、再現性を高めます。また、オーキシンのなどの植物ホルモンの濃度を変えて比較し、安定して発根させる技術を開発したいと思います。

7. 令和8年度の活動計画③ 樹木の枯死に対する菌類の影響



培地の作成



シャーレ

また、枯れたオオシラビソから発見される菌類の同定を達成したいです。別の菌類を用いて練習し、技術を向上させます。集団枯死との関係性を明らかにすることで、枯死の対策に役立つ研究を進めたいと思います。

7. 令和8年度の活動計画④ 継続的な現地調査・協働事業



私たちは、令和4年度から山形森林管理署の五十嵐さんに帯同させていただき、蔵王のオオシラビソの被害状況調査を行っています。可能であれば今後も調査に参加させていただき、現況を把握したいと考えています。また、樹氷復活県民会議との協働の取り組みも継続し、少しずつでもオオシラビソ林保全に繋がりたいと思います。

「樹氷復活県民会議」設置要綱

（設置の目的）

第1条 蔵王の樹氷は、非常に特異な自然現象であり、世界的にも希少で貴重な自然景観であるとともに、本県の冬のシンボルとして、海外でも広く知られる重要な観光資源となっている。

その景観を将来世代に手渡し、その恵みを脈々と守り続けることができるよう、東北森林管理局が行うオオシラビソ林再生に向けた取組みへの支援に加え、県民が自然環境の大切さを考え、自らその保全に貢献するとともに、行政機関・企業・団体の協力を促し、持続可能な社会の実現に向けた機運の醸成を図ることで、蔵王連峰の特徴的な植生であるオオシラビソ林を再生し、ひいては県民の宝である樹氷の景観を復活させることを目的として、「樹氷復活県民会議」（以下「県民会議」という。）を設置する。

（自然再生協議会）

第2条 県民会議は、自然再生推進法（平成14年法律第148号）第8条第1項に規定する自然再生協議会とし、同法第8条第2項の規定により次の事務を行う。

- （1）自然再生全体構想の作成・改定
- （2）自然再生事業の実施計画案の協議
- （3）自然再生事業の実施に係る調整
- （4）その他必要な事項

（対象区域）

第3条 自然再生の対象区域は蔵王国定公園とする。

（事業）

第4条 県民会議は、第1条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- （1）蔵王国定公園特別保護地区における植生の復元の支援に関すること。
- （2）オオシラビソ林の保全と再生に向けた調査研究への協力に関すること。
- （3）オオシラビソ林の保全と再生に向けた林野庁東北森林管理局との連携強化に関すること。
- （4）県民への普及啓発、県（国）内外への情報の発信（環境・観光）に関すること。
- （5）SDGsに向けた取組みとして企業・団体・個人サポーターの参画呼びかけに関すること。
- （6）次世代（子どもたち）への継承機会の確保に関すること。
- （7）自然再生事業実施者の支援に関すること。
- （8）その他、この会議の目的遂行のため必要なことに関すること

（組織）

第5条 県民会議は、設立の趣旨に賛同する別表に掲げる有識者及び団体（以下「構成団体」という。）の代表者で構成し、前条に掲げる事業とともに、それぞれの団体として、樹氷復活に向け自らの取組みを積極的に行うものとする。

（会長等）

第6条 県民会議に会長及び副会長を置く。

2 会長は山形県知事とし、副会長は山形市長、上山市長、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構理事長、及び公益社団法人山形県観光物産協会会長をもって充てる。

3 会長は、会務を総理し、県民会議を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

（アドバイザー）

第7条 県民会議に、会長の求めに応じ助言を行うアドバイザーを置くことができる。

（オブザーバー）

第8条 県民会議に、会長の求めに応じ意見を述べるオブザーバーを置くことができる。

（報道機関の協力）

第9条 県民会議は、設立の趣旨に賛同する報道機関の協力を得て、県民への普及啓発や県内外への情報の発信を行うものとする。

（サポーター）

第10条 県民会議は、設立の趣旨に賛同し、樹氷復活に自発的に取り組む又は取組みを支援する企業・団体・個人等を募り、県民会議サポーターとして登録するものとする。

（会議）

第11条 県民会議の会議は定例会とし、年1回、会長が招集し、その議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときは、会議に構成員以外の者の出席を求めることができる。

3 会議及び会議議事録は、公開する。

（ワーキンググループ）

第12条 県民会議に、オオシラビソ林再生に向けた試験及び研究や、樹氷復活に向けた具体的な取組みの検討及び立案等を行うため、次に掲げるワーキンググループを置く。

- (1) 技術検討ワーキングチーム
- (2) 情報発信・次世代継承ワーキングチーム
- (3) 自然再生協議会ワーキングチーム

- 2 前項に掲げるワーキンググループの構成は別に定め、前項第3号に掲げるワーキンググループの構成員は各構成団体が推薦する者とする。
- 3 ワーキンググループの事務局は、県環境エネルギー部みどり自然課とする。

(庶務)

第13条 県民会議の庶務は、山形県環境エネルギー部みどり自然課において処理する。

- 2 事務局は、山形県環境エネルギー部みどり自然課、同観光文化スポーツ部観光交流拡大課、同農林水産部森林ノミクス推進課、同森林研究研修センター、同教育局教育政策課、及び公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構緑化推進部で構成する。

(その他)

第14条 この要綱に定めるもののほか、県民会議の運営に必要な事項は、山形県環境エネルギー部みどり自然課が別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年3月13日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年3月17日から施行する。

樹氷復活県民会議（自然再生協議会）の構成

● 有識者及び構成団体

有識者	東北農林専門職大学森林業経営学科 教授 大久保 達弘
	山形大学 蔵王樹氷火山総合研究会 副所長（山形大学 名誉教授） 柳澤 文孝
	山形大学 農山村リジェネレーション共創研究センター 教授（山形大学 名誉教授） 林田 光祐
	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所長 山中 高史
地元関係団体	公益社団法人山形県観光物産協会
	やまがた観光キャンペーン推進協議会
	一般社団法人山形市観光協会
	蔵王温泉観光協会 ※
	蔵王坊平観光協議会 ※
	一般社団法人上山市観光物産協会
	一般社団法人山形県経営者協会
	山形経済同友会
	山形県商工会議所連合会
	山形県商工会連合会
	山形県中小企業団体中央会
	一般社団法人山形県銀行協会
	蔵王索道協会
	社会福祉法人山形県社会福祉協議会
	公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構
	山形県緑の少年団連盟
行政機関	環境省（オブザーバー）
	林野庁（オブザーバー）
	山形県
	山形市 ※
	上山市 ※
	山形県市長会
	山形県町村会

※印は地域住民の役割を兼ねている

● 在形報道機関

「樹氷復活県民会議」ワーキングチーム設置要綱

(ワーキングチーム)

第1条 「樹氷復活県民会議」設置要綱（以下、「設置要綱」という。）第12条第1項の規定に基づき、「技術検討ワーキングチーム」、「情報発信・次世代継承ワーキングチーム」及び「自然再生協議会ワーキングチーム」を設置する。

(所管事項)

第2条 各ワーキングチームは、次に掲げる事業を行う。

「技術検討ワーキングチーム」：設置要綱第4条第1項第1号から第3号に掲げる事業

「情報発信・次世代継承ワーキングチーム」：設置要綱第4条第1項第4号から第6号に掲げる事業

「自然再生協議会ワーキングチーム」：設置要綱第4条第1項第7号に掲げる事業

(組織等)

第3条 ワーキングチームは、別紙の構成機関及び構成員をもって組織する。

- 2 ワーキングチームには、必要に応じてアドバイザー及びオブザーバーを置くことができる。
- 3 技術検討ワーキングチーム及び情報発信・次世代継承ワーキングチームのチームリーダーは山形県環境エネルギー部みどり自然課長とする。
- 4 自然再生協議会ワーキングチームにチームリーダー及び副チームリーダーを置き、構成員の互選によりこれを定める。
- 5 招集は、チームリーダーが行う。

(その他)

第4条 この要綱に定めるもののほか、ワーキングチームの運営に必要な事項は、山形県環境エネルギー部みどり自然課が別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年5月26日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年3月17日から施行する。

【技術検討ワーキングチーム 構成機関】

- ・ 山形県環境エネルギー部みどり自然課
- ・ 山形県農林水産部森林ノミクス推進課
- ・ 山形県農林水産部森林研究研修センター
- ・ 山形市農林部森林整備課
- ・ 上山市農林夢づくり課
- ・ 公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構緑化推進部
- ・ 林野庁東北森林管理局山形森林管理署（オブザーバー）

【情報発信・次世代継承ワーキングチーム 構成機関】

- ・ 山形県環境エネルギー部みどり自然課
- ・ 山形県観光文化スポーツ部観光交流拡大課
- ・ 山形県教育委員会
- ・ 山形市環境部環境課
- ・ 山形市商工観光部観光戦略課
- ・ 山形市教育委員会
- ・ 上山市市民生活課
- ・ 上山市観光・ブランド推進課
- ・ 上山市教育委員会
- ・ 公益社団法人山形県観光物産協会
- ・ 一般社団法人山形市観光協会
- ・ 蔵王温泉観光協会
- ・ 一般社団法人上山市観光物産協会
- ・ 公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構緑化推進部
- ・ 山形県緑の少年団連盟
- ・ 在形報道機関
- ・ 林野庁東北森林管理局山形森林管理署（オブザーバー）

自然再生協議会ワーキングチーム 構成員

	構成団体	構成員
有識者	東北農林専門職大学森林業経営学科 教授	大久保 達弘
	山形大学 蔵王樹氷火山総合研究会 副所長（山形大学 名誉教授）	柳澤 文孝
	山形大学 農山村リジェネレーション共創研究センター 教授（山形大学 名誉教授）	林田 光祐
	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所 森林生態研究グループ長	齋藤 智之
地元関係団体	公益社団法人山形県観光物産協会 DMO 推進室 主事	永瀬 拓
	一般社団法人山形市観光協会 常務理事	伊藤 林也
	蔵王温泉観光協会 専務 ※	齋藤 龍太
	蔵王坊平観光協議会 ※	大場 英二
	一般社団法人上山市観光物産協会	（未定）
	蔵王索道協会 取締役索道事業部長	工藤 利彦
	公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構 緑化推進主幹	山口 修
地域住民	山形市推薦	山口 勝美
	山形市推薦	奥山 靖春
	上山市推薦	大沼 邦充
	上山市推薦	（兼）大場 英二
行政機関	環境省東北地方環境事務所国立公園課 課長（オブザーバー）	櫻庭 佑輔
	林野庁東北森林管理局山形森林管理署業務グループ 総括森林整備官（オブザーバー）	高橋 和幸
	山形県環境エネルギー部みどり自然課 課長	木内 真一
	山形県観光文化スポーツ部観光交流拡大課 主査	森野 太郎
	山形県農林水産部森林ノミクス推進課 森林保全主幹	丹野 真人
	山形県農林水産部森林研究研修センター 研究企画部長	早乙女 明
	山形県教育委員会 高校教育課 指導主事	瀧本 悠子
	山形県村山総合支庁保健福祉環境部環境課 課長	大久保 剛
	山形市農林部森林整備課 課長	高橋 芳昭
	山形市環境部環境課 課長	清野 一男
	山形市商工観光部観光戦略課 課長	樋口 潤士
	山形市教育委員会 総合学習センター所長	東海林一善
	上山市農林夢づくり課 副主幹	小林 崇
	上山市市民生活課環境衛生係 副主幹	土屋 晃司
	上山市観光・ブランド推進課 主査	金塚 洋輔
	上山市教育委員会 学校教育課 指導主事	佐竹 優

※印は地域住民を兼ねる

【樹氷復活サポーター 登録一覧】



参考資料 3

※登録順

	団 体 名	活 動 名
1	山形市立蔵王第二中学校	樹氷復活に向けた取組み
2	山形市立蔵王第三小学校	樹氷復活に向けた取組み
3	山形県立村山産業高等学校	オオシラビソの再生復活活動
4	株式会社カキザキ 山形国際ホテル	オオシラビソ林再生・樹氷復活 に向けた取組みへの金銭的な支 援
5	山形県緑の少年団連盟	樹氷復活に係る学習会開催事業
6	公益財団法人 やまがた森林と緑の推進機 構	オオシラビソ林再生・樹氷復活 自然事業
7	山形ワシントンホテル株式 会社	樹氷復活の為に支援金募金
8	山形市ホテル協会	樹氷復活の為に支援金募金
9	ホテルメトロポリタン山形	樹氷を守るため募金活動の実施
10	山形県観光物産協会	樹氷復活に係る情報発信のため の活動
11	株式会社SHG山形グランド 山形グランドホテル	樹氷を守るため募金活動の実施
12	蔵王ローブウェイ株式会社	樹氷再生・復活への取組み
13	株式会社山形丸魚	スノーモンスター復活
14	一般社団法人上山市観光物 産協会	樹氷復活に係る情報発信活動
15	日本地下水開発株式会社	山形蔵王における樹氷・積雪観 測と情報発信
16	蔵王温泉観光協会	オオシラビソ（アオモリトドマ ツ）再生募金
17	株式会社きらやか銀行	寄附による活動支援
18	株式会社市村工務店	オオシラビソ林再生・樹氷復活 活動の実施
19	上山市立宮川中学校	蔵王坊平地域でのオオシラビソ 林の保全活動
20	山形市立山寺中学校	樹氷復活に向けた取組み
21	山形県教育旅行誘致協議会	樹氷のメカニズムから環境問題 を学ぶ教育旅行受入プログラ ムの作成による取組みの周知

	団 体 名	活 動 名
22	やまがた広域観光協議会	樹氷復活に向けた取組みの情報 発信
23	上山市立中川小学校	蔵王の樹氷を復活させよう
24	山形市立蔵王第二小学校	樹氷復活に向けた取組み
25	蔵王坊平観光協議会	自然環境プログラム
26	公益財団法人全国山の日協 議会	樹氷復活県民会議活動等情報発 信
27	やまがた観光キャンペーン 推進協議会	広報活動
28	（一社）東北観光推進機構	蔵王の樹氷の魅力とともに、樹 氷の現状や再生に向けた取組み を発信
29	蔵王山岳インストラクター 協会	オオシラビソ林の再生及び保全 活動
30	山形千歳ライオンズクラブ	蔵王樹氷再生支援金及び募金活 動
31	おもてなし山形株式会社	エコツーリズムの促進 ～自然と共存する観光～
32	株式会社やまがた新電力	アイスモンスター復活プロジェ クト
33	株式会社ヤマコー	蔵王エリアのオオシラビソを守 る
34	株式会社宮部組	山形蔵王におけるオオシラビソ 林再生・樹氷復活に係る活動
35	山形県スキー場誘客推進協 議会	樹氷復活に係る情報発信、啓発 活動
36	一般社団法人JUMP for The Earth PROJECT	高梨沙羅を発起人とした社会貢 献プロジェクト
37	株式会社渡辺近七商店	樹氷復活への募金活動、支援金 の寄付活動
38	願いちょうちゃん やしょまか しよ プロジェクト実行委員会	樹氷復活への支援金の寄付
39	株式会社ヤママップ	YAMAPふるさと納税 YAMAPやまがた百名山バッジ キャンペーン
40	やまがた女将会	樹氷復活に係る情報発信、啓発 活動
41	東北農尊自然交流館	特別保護区（樹氷形成エリア） の現状を通じた環境教育活動
42	三井住友海上火災保険株式 会社	蔵王樹氷再生に係る活動